



# 利根町

令和6年度

広島平和記念式典派遣事業



期 日 : 令和6年8月5日(月)～6日(火)

派遣先 : 広島県広島市

### 「利根町非核平和都市宣言に関する決議」

利根町には、日本人の心の奥底にすりこまれた「ふるさとの原風景」がある。初めて訪れた人は懐かしさを感じずにはいられない。

天の雲を映す水田が、青く鮮やかな一面の田となり、やがて黄金色となって風にさざめく。

先人たちが大切に守り継いできた田園風景と日々の暮らしが調和した、美しくかけがえのないふるさとの姿がここにある。

このすばらしい郷土の中で、平和で安心して暮らせることは利根町民すべての願いである。

このような私たちの願いに反し、未だ核兵器の存在は世界の平和に深刻な脅威を与えている。

世界で唯一の核被爆国である我が国は、多くの尊い生命が奪われた。いかなる理由があろうとも広島・長崎の惨禍を再び繰り返し、すべての人類にもたらしてはならないことは、私たちの不変の決意であり、「非核三原則」を将来にわたり遵守するとともに核兵器の廃絶と世界の恒久平和を強く願わずにはいられない。

利根町、恒久平和の願いを新たにし、「非核平和都市」であることをここに宣言する。

平成 27 年 12 月 14 日

利根町議会

# 目 次

- 1 平和記念式典派遣事業概要（事業報告）・・・・・・・・・・ 1
- 2 令和6年度広島平和記念式典派遣事業内容・・・・・・・・・・ 2
  - ・ 広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会
  - ・ 広島平和記念式典派遣（令和6年 8月5日）【1日目】
  - ・ 広島平和記念式典派遣（令和6年 8月6日）【2日目】
  - ・ 広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告会  
(令和6年11月8日)【利根町文化センター】
- 3 参加生徒の報告  
参加者感想文及び平和へのメッセージ・・・・・・・・・・ 4
- 4 広島平和記念式典派遣事業写真集・・・・・・・・・・ 10

## ◎広島平和記念式典派遣事業概要（事業報告）

### （１）目 的

被爆地の広島市へ中学生を派遣し、戦争の現実、被爆の惨状等について知り、学び、考える機会を提供することにより、核兵器の廃絶及び恒久平和の重要性に対する理解を深めることを目的とする。

### 〈広島派遣〉

#### （２）広島平和記念式典派遣実施日

令和６年８月５日（月）～６日（火）

#### （３）派遣先

広島県広島市

#### （４）参加者

利根中学校	3年3名	2年2名	1年1名
教育委員会教育委員	1名		
利根中学校教諭	1名		
教育委員会指導課	2名		

### 〈結団式及び保護者説明会・事前学習〉

#### （５）広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

令和６年７月２６日（金）利根町役場 町長公室

#### （６）事前学習

令和６年７月２６日（金）利根町役場 町長公室

### 〈報告会〉

#### （７）広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告会

令和６年１１月８日（金）利根町文化センター

## 令和6年度 広島平和記念式典派遣事業内容

### ◎広島平和記念式典派遣事業参加者結団式及び保護者説明会

◇令和6年7月26日（金）午後5時30分～ 利根町役場 町長公室

#### ○結団式

- ・あいさつ（町長）
- ・参加者自己紹介
- ・事業内容説明
- ・派遣団 決意のことば
- ・写真撮影
- ・行程等の説明
- ・参加生徒の心構え

#### ○事前学習

「広島・長崎 原爆の歴史」教育委員会指導課  
（一部順不同）

### ◎広島平和記念式典派遣（1日目）

◇令和6年8月5日（月）

○出発式（布佐駅構内）	6：30
○移動（布佐～広島）	6：57～12：23
○被爆体験者講和	14：00～15：00
○広島平和記念資料館見学 千羽鶴奉納	15：30～17：30
○宿泊先着	19：15

◎広島平和記念式典派遣（2日目）

◇令和6年8月6日（火）

○広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式参加（平和記念公園 8:00～8:50）

- ・開 式
- ・原爆死没者名簿奉納
- ・式 辞
- ・献 花
- ・黙とう・平和の鐘
- ・平和宣言（広島市長）
- ・放 鳩
- ・平和への誓い（こども代表）
- ・あいさつ
- ・ひろしま平和の歌（合唱）
- ・閉 式

○碑めぐり・原爆ドーム見学 9：30～

○移動（広島～布佐） 14：18～19：49

○解散式（布佐駅構内） 19：50

◎広島平和記念式典参加生徒による全校生徒への報告会

◇令和6年11月8日（金） 利根町文化センター

○広島平和記念式典参加者報告会

- ・広島記念式典参加報告等（スライドによる説明）

## ◎参加者感想文及び平和へのメッセージ

### 広島に行つて

利根町立利根中学校 3年

今から79年前の広島は生き地獄さながらの光景でした。何も罪を犯していない人々が1発の原爆によって亡くなっていく、それは容易に考えられる光景でしょうか。人も建物も焼かれ、水を求める声や体全体にやけどを負い、皮がむけ、ぐったりとたおれこむ人々などで広島のにぎやかできれいだつた町並みやにぎわいは埋め尽くされました。また、爆風によって大きな被害を受けました。それを私は式典や原爆ドーム、平和記念資料館で見聞きした時、衝撃と同時にとても大きな悲しみを覚ええました。資料館を出た後、とても体が重かったです。

また、胎内被曝された被爆者に話をうかがいました。その方のお母さんによると、原爆が落とされた時はもちろん、落とされた後の生活は特に食料調達が大変だつたと聞いたそうです。それを聞いて私は、なんて今の私たちの生活は幸せなのだろうと思いました。水も食料もすぐに手に入れることができる、足りないものがあれば好きな時にすぐ買うことができるという何不自由ない生活の中で生きてきた私はとても恵まれているなと思いました。そんな恵まれている日本が今あるからこそ、そんな厳しい状況だつた日本のことを決して忘れてはいけなと私は思いました。

戦争は終わり、日本には少しずつ平和が戻ってきました。しかし、今でもロシアとウクライナが戦争をしているなど世界で見るとまだ平和は完全には訪れていないと思います。平和にしていくためには、世界でただ1つの原爆が落とされてしまった日本が先頭に立って平和の大切さ、戦争の悲惨さを伝えていく必要があると思う。そうすべきだと思ひます。

今回の派遣事業に参加させていただき、貴重な見学をさせていただけたことにも感謝します。

#### ～平和へのメッセージ～

戦争はすべきではない、そして核兵器も使うべきではないと私は思ひます。なぜなら全く関係のない人まで被害を受けるということがあつてはいけなとことだと思つたからです。今のきれいな広島を、また安全な暮らしを守つていくためにも、いつまでも平和で在り続けてほしいです。これからも広島について積極的に調べ、今回の経験を無駄にしないように語り継いでいきたいです。

## 平和記念式典に参加して

利根町立利根中学校 3年

私は今まで原爆のことについてあまり知りませんでした。ですが今回の広島平和記念式典派遣事業を通して、特に印象深かった話があります。

1つ目は、碑めぐりの時に聞いた話です。被爆者の家族を探す時に、1人1人の口をあけて、その歯並びで自分の家族を判断する話を聞いてとても驚きました。

2つ目は、資料館での写真や被爆者たちの話です。原爆が落とされてその日を生き延びても、その後も髪が抜けて、白血病になったりケロイドができたり、1週間も生きられなかった人もいます。

このようなことを今回の派遣事業でより身近に学ぶことができました。私はこのようなことを2度とくり返さないように、私のように原爆についてあまり知らない人達にも原爆の恐ろしさを伝えていきたいです。



～平和へのメッセージ～

今生きている被爆者の人たちは、平均年齢が85歳で10万人ほどしかいません。原爆のことについて知れるこの貴重な話を少しでも多くの人に知ってもらえるように伝えていきたいです。

## 広島に行って感じたこと

利根町立利根中学校 3年

私は広島平和記念式典派遣事業に参加し、たくさんのことを学びました。その中でも特に資料館が印象に残っています。

資料館では原爆が落ちる前と、落ちた後の広島の写真が飾られていました。きれいな街並みからたった1つの原爆で焼け野原になった広島の写真を見て、今まで教科書などで学んだ原爆の恐ろしさの何十倍も原爆の恐ろしさを感じました。

また、資料館では原爆が落ちたあとの人々の写真や絵がたくさんあり、何も悪いことをしていないのに辛い思いをした人がいることを絶対に忘れてはいけないと思いました。生き残った人の日記には後遺症の苦しみや大切な人を失った悲しみが書かれていて自分も悲しい気持ちになりました。

1秒でも早く、世界から戦争がなくなり、平和な世界になってほしいと感じました。



～平和へのメッセージ～

今回自分が学んだことを発信し、2度と同じことをくり返さないために、自分にできることをしたいです。

## 原爆ドーム

利根町立利根中学校 2年

私の原爆ドームを見る前の印象は、原爆の被害を受けて、半壊してしまった悲しい建物だと思っていました。

ですが、原爆ドームをとり壊すことを広島市の住民がとり壊さないでくれと願ったという話を聞き、印象が変わりました。原爆の被害を受けてなお耐え残った原爆ドームは、原爆を受けてもまだ諦めず、前を向いた広島市を象徴しているようでした。

また、今もまだ立ち続けている原爆ドームは、どこかで原爆の悲惨さを伝え続けている人の象徴であり、証であると考えました。



～平和へのメッセージ～

広島に行って学んだことを色々な人に伝えていきたいと思います。

## 命の重さ

利根町立利根中学校 2年

僕が広島平和記念式典派遣事業において感じたことが2つあります。

1つ目は、原子爆弾の恐ろしさです。僕が見た原爆ドームの造りはとても頑丈で素材もすぐに壊れなそうなものしか残ってないのですが、それ以外のものは全て原子爆弾の威力によりなくなってしまったと考えると、とても恐ろしくなり、投下直後を想像すると悲しい気持ちになりました。そして僕は建物や人々などを吹き飛ばしてしまうほどの威力がある原子爆弾のことを、改めてとても恐ろしいものだと思います。

2つ目は、命の尊さです。広島に原子爆弾を落とされたことにより約35万人が亡くなったと言われていています。これを知り僕は、命はいつ失われるかも分からず、儚いものなんだなと思いました。亡くなるかわからないからこそ、命は尊く大切にしていかなければと原爆ドームに行き感じることができました。



～平和へのメッセージ～

戦争で失われた命は約230万人にのぼります。また、戦争が繰り返されな  
いよう、戦争の恐ろしさについて知ってもらいたいと思います。

## 戦争と原爆の恐ろしさ

利根町立利根中学校 1年

私は、今回の派遣事業に参加して戦争と原爆の恐ろしさが分かりました。

資料館では、被爆前の広島と被爆後の広島の写真を見比べ、1回の原爆の威力の強さや火傷をおった方々の写真、実際に残されている遺品の数々から、戦争と原爆の悲惨さが伝わってきました。

更に、被爆者石原さんのお話では、後遺症で今も苦しめられている方がいることが分かりました。

私は戦争と原爆の存在が忘れられることのないよう後世へと語り継いでいきたいと思いました。



～平和へのメッセージ～

今回学んだことを多くの人へ伝え、戦争と原爆（核兵器）のない平和な世界へと継いでいきたいと思います。

◎広島平和記念式典派遣事業写真集



### ◎編集後記

被爆体験者講和で聞いた「私は被爆者がかわいそうだとは思わない。大切なことはこれからどうやって生きていくかどうか。」という言葉が今でも心に響いている。胎内被爆者であったご本人が、誰かを憎むわけでもなく、講和の中でとても前向きなメッセージを発信し、何があっても明るく未来を切り拓いていくことが大切であると語っていた。

日本は世界で唯一の原爆による被爆国である。だからこそ恒久平和を世界に訴える上で重要な役割を担っている。通算5度目となる利根町の広島平和記念式典派遣事業に参加した生徒が、今回の体験を通して平和の尊さを世界へ広め伝えていくことを切に願う。

最後に、今回参加していただいた利根中学校の生徒の皆さんと保護者の方々、教育委員会、学校関係者の方々、また、広島市の関係者の皆様のご協力に感謝し、広島平和記念式典派遣事業報告書が発行できたことにお礼申し上げます結びとさせていただきます。



### 令和6年度 広島平和記念式典派遣事業

編集 : 利根町教育委員会 指導課  
茨城県北相馬郡利根町布川 841 番地 1  
TEL 0297-68-2211 FAX 0297-68-7989

協力 : 利根町立利根中学校  
発行 : 令和6年11月